

## ウクライナ民謡『また秋が来て』

ウクライナの戦場の映像を見て、心が痛むのが爆撃や砲撃で裸になった木々や森です。ここには多くの鳥が巣を作り、子育てをしていたはずですが。今は無残な姿が広がり、一羽の鳥も見かけません。いったいどこへ飛び去ったのでしょうか。爆風でやられた木々の根っこは大丈夫でしょうか。そうであれば、戦が終わったとき、また緑溢れる自然に戻るはずですが。そして鳥も戻ってくるはずですが。

『また秋が来て』というウクライナ民謡の歌詞には、『夜鶯』が出てきます。別名ヨナキウグイス（夜鳴鶯）とも呼ばれています。夜鶯とは、英語名で『ナイティンゲール(nightingale)』。ナイティンゲールは、森林や藪の中に生息し、夕暮れ後や夜明け前によく透る声で鳴くといわれます。夏が過ぎ、秋がやってくるとナイティンゲールはウクライナからアフリカ南部に渡り越冬するのです。しかし、今やナイティンゲールは、秋を待たずどこかに追いやられています。『また秋が来て』の歌詞です。

また秋が…

遠い南へとまた

鳥たちはウクライナから飛び去っていく

高く渦を巻いて

はるかな旅路を行く

夜鶯の歌が消えた

流れていた空から

夜鶯の歌流れるウクライナは

その歌もなしに

どうやって暮らしていくのだろうか？

(中島章利 訳)



nightingale

夜鶯と聞きますと、ロシアが 2014 年に一方的に併合したクリミア半島と、そこを舞台とした戦争が想起されます。1853 年にクリミア半島などを舞台として繰り広げられたクリミア戦争です。この戦争は、南下を図ったロシアに対し、

これを阻止しようとして、オスマン帝国と同盟を結ぶイギリスやフランスがクリミア半島に出兵して参戦した戦です。この戦争に従軍したのが、イギリス人看護婦フローレンス・ナイティンゲール(Florence Nightingale)らです。彼女らはイスタンブール(Istanbul)対岸の野戦病院で国籍を超えて傷病兵の看護にあたり、兵舎病院の衛生改善に努力したといわれます。後に、専門教育を施した看護婦の養成の必要性を説き、1860年ロンドンに「ナイティンゲール看護学校」(Nightingale Training School)を創設します。(Wikipedia から)

一人の看護婦と一羽の鳥の名前が奇しくも同じであるのは偶然なのでしょうか。夜鶯が来年ウクライナに戻ってきたとき、林や森はどんな姿で彼らを迎えるのでしょうか。

(2023年8月25日 成田 滋)